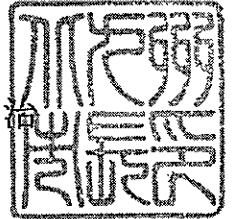




北九建道計第107号
平成20年10月20日

国土交通省道路局長
金井 道夫 様

北九州市長 北橋 健治



今後の道路行政についての意見・提案の提出について（回答）

平成20年9月19日付け国道企第37号で依頼のあった標記の
件について、別紙のとおり提出します。

①道路行政全般について改善すべき点、要望や提案など

北九州市

要 望

【方向性について】

道路は、地方の経済や福祉、医療、教育などを支える重要な社会基盤施設として、これまでも、十分に役割を果たしてきました。

また、この進め方としては、重点施策、地方の課題などを基に、優先度を考慮して整備を行ってきました。

従って、今後、財源や事業手法等の制度設計が変わろうとも地方に必要な道路整備は着実に進める必要があります。

【道路財源の確保について】

一般財源化への議論が行われていますが、今後も、地方は幹線道路整備、交通安全事業、維持事業など必要な事業を多く抱えており、この道路財源の確保は必要かつ最も重要な課題であると考えています。

本市では、平成20年度当初予算で、道路・街路の補助内示(通常・交付金)は、要望の65%程度(約148億円要望に対して約95億円の配分)となっており、これ以上の道路予算の削減は市民生活に多大な影響を及ぼすものと危惧しています。

従って、現在、地方へ配分されている道路特定財源(譲与税、補助事業等)については、今後も同程度以上の確保を望みます。

さらに、この財源については、税徴収の目的に鑑み、今後も道路整備費として配分をいただきますようお願いいたします。

【地方分権の範囲について】

現在、国道の権限移譲が議論されていますが、この路線の選定については、国の経済、防災面など、より高い観点で熟考をいただきたいと考えています。

また、この権限移譲にあたっては、特に財源面において十分に協議を行い、地方の財源の負担増とならないようご配慮をお願いします。

提 案

【地方の裁量の拡大について】

道路に対するニーズは、各地域の特性から大きく異なっておりまいた。そこで、今後は地域独自で計画し、推進できる柔軟な財源、事業の制度設計を望んでいます。例えば、国道、地方道、街路等、個別事業への配分から、道路種別にとられない自治体単位で財源を一括(パッケージ)配分するような制度の提案をいたします。

②ー1 地域の現状と抱える課題

北九州市

【現 状】

- 新たなまちづくりのマスタープラン
新・北九州市基本構想(H20年12月策定予定)
- 好調が続く企業進出(拡大):H14~H20.7月
自動車関連を中心に約200件、新規雇用は1万人
- 都心、副都心など都市拠点の整備
中心市街地活性化法に基づき小倉、黒崎の基本計画が認定、
官民による都市の活力や維持向上の取り組みが進められている
- 道路施設の増大と老朽化
市内の道路延長 4,300km 市内の橋梁 1,900橋
- 超高齢・少子化社会
本市の高齢化率は、23.3%で少子高齢化がさらに進展
(政令市中1位、全国平均を大きく上回る)
- 市民に身近な生活道路の要望
日常的な生活道路などに対する要望が増大している
(舗装補修や歩道の新設、生活道路の改築など)
- 環境モデル都市の指定(H20年9月)
環境問題に対する市民・企業・行政の意識の高まり
- 市民との連携
道路施策に関する市民意識の向上

【課 題】

- 新・基本構想を実現するための「総合的な道路施策」の推進
- 今後、財政難の中、地域産業を支え、企業誘致をさらに促進
する幹線道路整備の推進
- 都心、副都心など都市の発展を支え、まちや商業機能の活性化と
人口の集積を促進する道路整備の推進
- 地震など災害に強い安全な地域社会の構築を目指し、橋梁の
長寿命化や耐震化等道路施設の適切な維持管理の推進
- 高齢者など全ての人が安全に快適に生活できるまちづくり
安心して子供を生み育てられる環境づくりに向けた道路整備の推進
- 生活に必要な不可欠な身近な道路の質を高め、市民が生活しやすいと
実感できるみちづくりの推進
- 環境モデル都市として低炭素社会づくりを推進する道路施策の推進
「環境首都総合交通戦略プラン」に基づく事業の推進
- 市民と行政の協働で取り組む道路施策の拡大

まちづくりの目標【新・北九州市基本構想(H20.12月策定予定)】

「人と文化を育み、世界につながる環境と技術のまち」

目指すべき将来像

子育て・教育日本一を実感できるまち

安全・安心な暮らしができるまち

産業の発展と競争力のある元気なまち

アジアとつながる国際物流拠点都市

世界の環境首都が実感できるまち

今後の道路行政についての意見・提案

様式 ④

北 九 州 市

③ 道路施策の重点事項(代表事例、期待する効果や評価等)

重点事項	代表事例	期待する効果や評価等	その他
【都市の発展】 ○広域物流ネットワークの強化 ○ランプ10分圏域の拡大 (自専道へのアクセス時間) 【安全・安心なまち】 ○橋梁・モルールの長寿命化や耐震対策 ○地震や災害に強い市街地への再生 【市民の暮らし】 ○子供や高齢者を守るみちづくり ○市民に身近な道路整備 【環境】 ○地球温暖化に対応するみちづくり 【市民との協働】 ○歓迎とおもてなしのみちづくり	○国道3号黒崎バイパス ○新若戸道路 ○国道199号砂津バイパス ○(都)6号線 ○(都)9号線 ○(都)戸畑大谷線 ○国道211号 ○(都)八幡鞍手線(北九州大橋) ○東九州自動車道 ○関門海峡道路 ○長寿命化計画に基づく点検及び修繕の実施 ○緊急輸送道路等の橋梁の耐震補強 ○折尾連立、区画整理事業(折尾、学研都市) ○市街地再開発事業(西小倉駅前、小倉駅南口) ○駅周辺や住宅地内での歩道のバリアフリー化 ○通学路を対象としたあんしん道事業 ○暮らしにやさしい道事業 ○幹線道路網の計画的な整備 ○折尾等主要駅、主要バス停等の交通結節点整備 ○自転車利用環境の整備 ○北九州風景街道の取り組み ○北九州おもてなしの道づくりの推進 ○北九州市道路サポーターの拡大	○空港等物流拠点の利用促進 ○企業の立地促進 ○都心・副都心、折尾地区等の活性化 ○街の魅力や回遊性、集客機能の向上 ○市民サービスや救命率の向上に貢献 ○橋梁耐用年数を50年から100年以上に ○地震等災害から市民を守る(減災化) ○密集市街地の防災機能の向上及び居住環境の改善 ○高齢者や障害者にやさしいまちづくりの進展 ○子育てしやすい環境の構築 ○地域住民の安全確保と利便性の向上 ○円滑な道路交通の実現によるCO2の削減 ○交通渋滞の緩和 ○公共交通の利用促進 ○歴史・文化や美しい風景の保全、継承 ○美しいまちづくりの進展と都市イメージ向上 ○新たな観光客の誘致	○物流ネットワークの整備率 86% ○ランプ10分圏域のカバー率 85% ○市内1900橋 築50年は約1割 20年後は約5割に ○主要駅周辺の歩道BF化率 85% ※以上、パーセンテージは、 (H20.4月現在) ○CO2削減 5年後 -12万t 長期 -32万t ○道路サポーター 88団体、5,800人 (H20.10月現在)